

令和7年度（一社）岐阜県臨床検査技師会
精度管理事業部総括集発刊にあたり

（一社）岐阜県臨床検査技師会
会長 岡村明彦

今年は10月中旬まで夏日を記録するなど、昨年を超える猛暑となりました。地球温暖化が懸念される一方で、その後は平年を下回る気温が続くなど気候の二極化が心配されます。日本らしい四季の移ろいが懐かしく感じられる時代が来るのかもしれませんが。また、経済面では株価の記録的な上昇やインバウンド需要に伴う物価高騰、円安など私達の生活基準がこれまでとは大きく変化していると感じます。こうした影響は技師会の運営にも及んでおり、精度管理用試薬高騰が続いています。今後の精度管理事業運営においては、やむを得ず参加費への価格転嫁をお願いする場面も出てくるかと思いますが何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

さて、このたび精度管理事業部総括集を発刊できること大変うれしく思います。昨年12月からの試薬購入計画や予算立案に始まり、問題作成、試薬発送、結果報告を経て、いよいよ報告会および精度管理事業部総括集発刊を迎えることができました。

また、昨年も申し上げましたが臨床検査技師を取り巻く環境は検体採取、チーム医療、タスクシフト・シェアなど業務拡大の方向へと大きく変化しています。しかしながら、臨床検査技師の本質は「正確な検査結果を臨床や患者に還元すること」にあります。岐阜県臨床検査技師会といたしましても精度管理調査を通してこの本質を守り、臨床検査の信頼性を支える体制を今後も継続してまいりたいと考えております。

末筆ながら、精度管理調査の遂行にあたりご尽力いただきました精度管理事業部ならびに学術部門員の皆様に心より感謝申し上げます。